町田のおカイコさん

ガイドブック





町田市教育委員会

はじめに

この冊子は「町田のおカイコさん」展のガイドブックとして、小学校中学年から中学生までを対象として作成しました。ここに掲載している写真の中には展示していないものもありますが、みなさんが町田の養蚕について調べることができるよう、たくさん紹介します。

町田とカイコ

カイコを育て、マユを収かくするまでの作業を「養蚕」と言います。マユからは生糸という糸ができ、これを加工すると絹（シルク）という丈夫できれいな糸ができあがります。

マユは身のまわりのものに変身するよ！

絹糸はピカピカしているね



マユ



生糸



絹糸



着物
食べ物
インテリア
化粧品など



町田では江戸時代から昭和時代のはじめごろまで、農作業のあいまに養蚕がおこなわれていました。

町田で養蚕がおこなわれていた理由

- 糸とマユが集まる八王子と、生糸を外国へ輸出する中心的な港だった横浜を結ぶ道の中間に町田はあった。原町田が商業地として発展し、市では糸とマユが中心的な商品だった！
- 糸とマユは、お金をかせぎやすかった！　などと考えられます。

しかし、生糸にかわる化学せんいの登場によって絹を使う機会が少なくなるなどの理由により、養蚕をおこなう家は少なくなりました。

カイコのごはん「桑」

カイコに桑の葉をエサとしてあたえることを「給桑」と言います。カイコ100頭を卵からマユになるまで育てるには約6キログラム（約1600枚）の桑の葉が必要です。たくさんのカイコを育てるにはたくさんの桑の葉が必要なので、昔の町田には桑畑がたくさんありました。



町田で見られる桑の木

昔の町田の地図



大日本帝国陸地測量部「原町田地形図」（1909年）
町田市立自由民権資料館所蔵

桑畑の地図記号がたくさんあるよ



桑畑の地図記号



「春養蚕日記」（1907年）
町田市立自由民権資料館所蔵
大きく良い桑の葉と、それを見つけた場所を記録したもの。

カイコが大きく成長すると食べる桑の量もふえるので、子どもも桑つみなどの手伝いをしました。養蚕の仕事でいそがしくなる時は、「カイコ休み」といって学校が休みになりました。

マメ知識　大人の着物1枚を作るには、マユ約3000こ（約5キログラム）が必要だよ。

養蚕の仕事と道具

マメ知識 ひとつのマユからとれる糸の長さは約1000〜1500メートルだよ。

カイコが卵からマユに成長するまで、約１か月かかります。この間にさまざまな仕事を、たくさんの道具を使っておこない、大切に育てました。

はき立て

種紙の上で卵からかえったカイコを、ほうきを使ってエビラ（飼育用の棚）へ移します。



種紙

カイコの卵が産みつけられている台紙です。カイコの卵は植物の種にについていることから「種」と呼ばれています。



はき立てほうき

卵からかえったばかりのカイコは、とても小さいので、鳥の羽根でやさしくあつかいました。

飼育

桑つみ カイコのエサの桑の葉をつみます。

給桑 カイコに桑の葉をあたえます。

除砂 カイコの食べ残しや、フンなどをそうじします。



桑切りかま



押切

小さいカイコには桑の葉を刻んであたえました。



桑爪という道具を使って桑の葉をつんでいるよ（図師町）

上ぞく

マユを作るため、まぶし（カイコがマユを作る道具）へカイコを移します。



木ばち（かいこぼん）

マユを作る直前のカイコを、まぶしへ移すために使いました。



回転まぶしの様子（小山町）

マス目にマユがたくさんあるね

まゆかき

まぶしに作られたマユを収かくし、長く保存できるように、かんそうさせます。

毛羽取り

収かくしたマユの毛羽を取り、きれいにします。



毛羽取り機

糸引き

マユを煮てやわらかくなった糸（生糸）を引き出します。



座操り



あげわく

座操りで巻き取った生糸を、糸と糸がくっつかないようにかわかしながら巻き取る道具です。



町田市立自由民権資料館寄託資料

おばあさんが糸引きをしているね（小野路町）

写真の道具のほかにも、たくさんの道具を使っていました。

出荷

生糸を売ります。糸にせず、マユのまま売る場合もありました。



マユかご

マユを運ぶ竹かご。



マユます

マユの量をはかるいれ物。

町田で見られる祈りのかたち

カイコはとても大切にされ、「おカイコさん」「おカイコさま」「おこさま」などと親しみをもって呼ばれていました。
そして、大切なカイコが元気に育ち、マユがたくさんとれるよう、神さまや仏さまにお祈りしました。今でも町田には、養蚕に関係する神社やお寺、言い伝えなどが残っています。



①蚕種石（相原町）
この石が青く光るのを見て「はき立て」の時期を知ったという言い伝えがあります。



②馬鳴菩薩（小山町 中村不動尊境内）
まずしい人びとに衣服をあたえる仏さまで、養蚕や織物の仏さまでもあります。



③蚕影神社（常盤町 常盤不動尊境内）
茨城県つくば市にある蚕影神社から勧請（神さまの分身をほかの土地でまつること）したと考えられる神社です。



⑤蚕影神社（山崎町）



⑥不動山妙全院（広袴）
妙全院の観音像は「糸引観音」として養蚕農家に大切にされました。



⑧蚕蛹供養碑（三輪町 熊野神社境内）
カイコのサナギを供養するために建てられました。

④子守神社（矢部町 箭幹八幡宮境内）
正面にカイコガ、左側に桑の葉の模様があります。「蚕守」から「子守」に名前が変わったと考えられます。



⑦金色姫（金井）

カイコの神さま



金色姫の掛軸（町田市教育委員会所蔵）



稚産霊神の掛軸（町田市教育委員会所蔵）

【画像左】**金色姫**
天竺（今のインド）から桑の木でできた船に乗り、日本へ養蚕の方法を伝えた人物という伝説があります。

【画像右】**稚産霊神（左）**
日本神話に登場する、カイコと桑を生み出した神さまです。手にはカイコ、カイコガがついている桑の枝、カイコの卵がついた紙を持っています。

見学するときは、まわりの家や人の迷惑にならないように注意しましょう。

町田の歴史を知ることができる場所

行ってみよう！

町田市立自由民権資料館（町田市野津田町897）

町田を中心とした「自由民権運動」や、町田の歴史についての資料を展示しています。

開館時間　9：00～16：30
休 館 日　月曜日（祝日の場合は開館し、翌日休館）、年末年始

自由民権資料館

三輪の森ビジターセンター 郷土資料展示室（町田市三輪町740）

鶴川地域を中心とした、昔のくらしの道具を展示しています。

開室時間　9：00～16：00
休 室 日　月曜日（祝日の場合は開館し、翌日休館）、年末年始

郷土資料展示室

町田市考古資料室（町田市下小山田町4016）

町田で発見された縄文時代（約16000～2400年前）の土器や土偶などを展示しています。

開室時間　10：00～16：00
開 室 日　第2・4土・日曜日、祝日／7・8月は毎週土・日曜日、祝日

考古資料室

すべて見学無料　ご来館にあたっては、各施設のホームページをご覧ください。

インターネットで知る！見る！楽しむ！

町田デジタルミュージアム

町田の歴史資料約2000点をインターネットで見ることができます。

町田デジタル
ミュージアム

町田のおカイコさん ガイドブック

発行日：2023年7月22日

編　集：町田市立自由民権資料館
　　TEL 042-734-4508
　　（担当：佐久間かおる、井上茂信）
発　行：町田市教育委員会
　　〒194-8520　東京都町田市森野2-2-22
刊行物番号：23-15
印　刷：ニューカラー写真印刷株式会社

この冊子は3,000部作成し、1部あたり単価は68円です（職員人件費を含みます）。

伝えたい歴史があるから
いいことふくらむまちだ